



つばさっ子

2014年 11月号



今月の行事

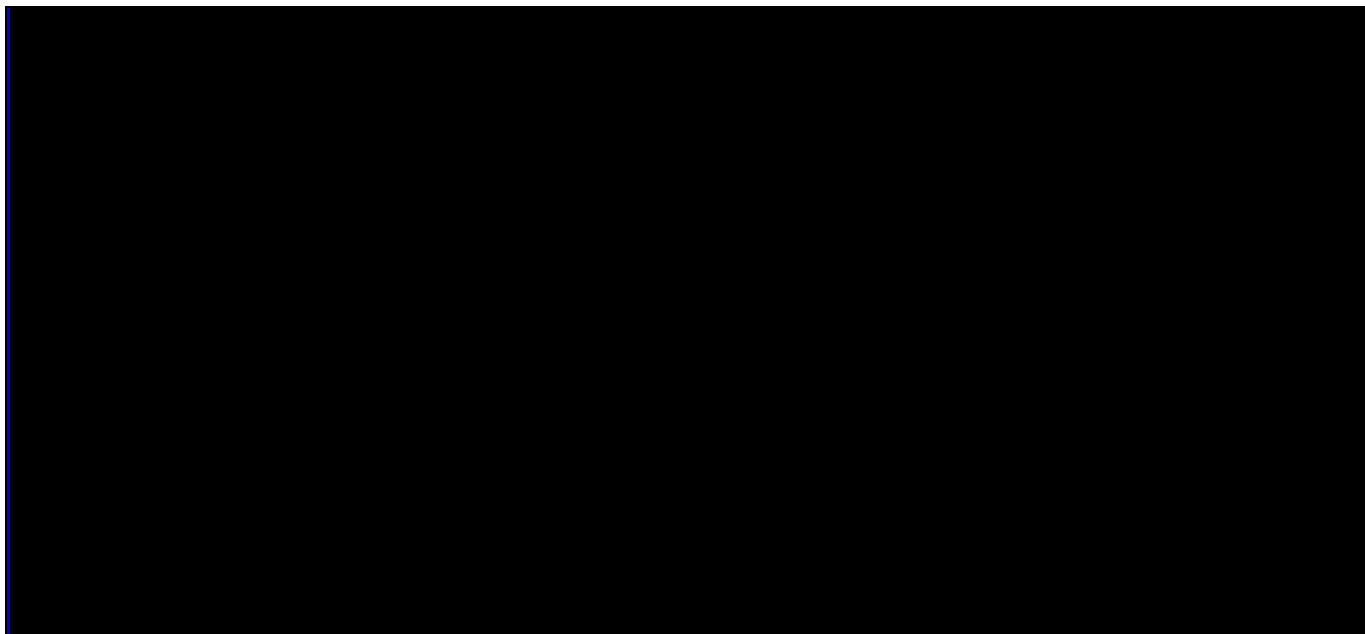


2日(日)		アトム共同保育園竣工式典 アトム寄席こけら落とし
8日(土)	14:00~	ひよこ懇談会
12日(水)	9:00~11:00	5歳児遠足(雨天時→14日)
13日(木)		交通安全教室
16日(日)	10:00~	つばさマジックショー
18日(火)		5歳児 消防・庁舎見学
21日(金)	10:00~	お誕生日会
	18:30~20:30	きりん懇談会
28日(金)	18:30~20:30	うさぎ懇談会
29日(土)	9:00~11:00	ぱんだ懇談会+試食会

※27日(金)は18:30~全体職員会議です。早めのお迎え・家庭保育などご協力の程、よろしく申し上げます。

※11月から、関西医療大学、大阪健康福祉大学の学生が来ます。

新職員体制(11月~) 園児数 125名 職員 27名



※パート職員の自己紹介コメントは来月号に掲載します。お楽しみに。

※11月以降もつばさっ子・アトムっ子を閲覧したいという意見を保護者の方から頂きました。閲覧したい方は、つばさ・アトム両事務室に置いてありますので、声を掛けて下さい。



第 1 回 大人のための懇談会を終えて

きりん・すいか事務係 保手浜

10月5日にカンガルーの会主催の第1回大人のための懇談会がありました。

山本さん、おっこちゃん、木村さんをゲストに迎え、つばさ・アトム
の保護者と職員をあわせて30名の参加がありました。参加してくだ
さった皆様、本当にありがとうございました。

前半はアトムの歴史を振り返り、後半は今の気持ちを率直に伝
える懇談会になりました。この企画の意図について、皆さんから頂
いた感想をふまえて私の感想を書かせてもらいたいと思います。

山本さん →山本健慈会長理事

おっこちゃん→市原悟子理事長

木村さん →アトム共同保育園・つばさ共同保育園を
育む会代表世話人

なかちゃん→仲嶺つばさ共同保育園園長

<企画の意図について>

つばさ保護者の「アトムについてもっと知りたい」という想いと、「不満はないのにもやっとする」といった心の中で感じていること。これら
をそのままにしてちゃダメだね、じゃあどうしよう？というところから始まりました。カンガルーの会だからできる事ということで、普段あまり
話を聞くチャンスがない3名を招待して話をしてもらうことと、3名にも一緒に今の気持ちを聞いてもらい、できるだけたくさんの人に一
緒に考えて欲しくてこの企画を考えました。つばさ共同保育園が開園し3年目、カンガルーの会が出来てたった2年で、こういう企
画をしたいと声が上がった事は、正直嬉しかったです。

<アトムについての振り返り>

山本さんに「アトム・つばさの歴史と思想」というテーマで講演をしていただき、改めてこれまでの経緯を振り返りました。おっこちゃん
からは「今保育で大切にしている事に至った話」をしてもらいました。

保育園の名前にも入っている「共同」という言葉に込められた真意、子どもが「ひと」として育つために必要なことは何か？そして
私たち大人ができることは？つばさ共同保育園のホームページにも掲載されている理念について、つばさ・アトムがリスタートするこの
タイミングで、みんながもう一度考えるきっかけになっていけば嬉しい限りです。

<大人のための懇談会にて>

懇談会の一番の狙いは、「保育士さんに対してモヤモヤ感を感じている」と正直に伝えることでした。ただ気持ちを伝えられれば良
いと思っていたわけではなくて、もっと本音で語り合える関係になりたい、距離感をもう一歩縮めたいと思っているからこそ、モヤモヤし
ているという事を伝えなかったのです。

保育士さんからも「本音で語り合える関係が大事だと思っている。日々そういう関係になれるよう努力している」といった感想を多
数頂きました。でも同時に、「なかなか自分を出せていない」といった感想もありました。

双方が同じことを願っているのに、どうして距離感が縮まらない、自分を出せないのでしょうか？おっこちゃんからは「ええカッコしい」
だからだ、という指摘をもらいました。私たちが感じた「媚びてる感じがする」というのも、「他人から良く思われたい」という「ええカッコ
しい」に通じているように思います。

このおっこちゃんの「ええカッコしい」は、出席者にかなりインパクトを与えたようで、かなりたくさんの方が「あてはまる」と感想で書いて
くれました。同時に「なかなか変えられない」との意見も複数ありました。こういう自分たちなんだと認識できて、お互いが同じ思い
なんだと伝えあえただけでも、今回の懇談会をした意義はあったと思います。

<これからのつばさに願うこと>

懇談会が終わってから、「アトムの思想は体験を通して引き継がれる」と山本さんさんは教えてくれました。確かに私自身も振り返
れば沢山の体験をしてきました。アトムに入園したての頃は、第一子とうまく向き合えなくて苦しんでいて、担任だったなかちゃんに毎
日沢山話を聞いてもらっていました。保護者仲間ができてからは、色々な話がとまらなくて徹夜してしまったこともあり、くまどり
子どもまつりで本気で戦隊ヒーローをやってみたり、随分やんちゃな事もしていました。いろいろな行事を一緒にしているうちに仲良
くなって子ども達のお泊りが始まり、それがきっかけとなって家族ぐるみの付き合いとなり、各家庭の距離がぐっと近くなったことを思い出
します。その頃の仲間は、今ではもう10年来の友となり、小学校を卒業し中学校になった今でも、子どもの成長を語り合える私に

はなくてはならない存在になっています。

そういう自分の体験があるからこそ、若手の保育士さんや新しい保護者の方には、いろんな体験をしてもらいたいと願っています。思い切って誰かのお世話になってみてください。そして、また違う誰かのお世話をしてみてください。体験から感じる何かがかきとあると思います。そして、長い子育てをともに歩んでいける、保育士・保護者という枠を超えた、かけがえのない子育て仲間を見つけてください。卒園して、小学校に入って不安になっても、思春期でくじけそうになっても、近くに我が子を小さいころから理解してくれている仲間がいるということは、何より心強いのです。

また、アンケートの中には現状認識として「保育園として成熟安定した今、昔のような問題解決をしながら密な関係を築けた頃とは環境が違い過ぎる。」と、まとを得た意見もいただきました。本当にご指摘の通りで、だからこそ意識的に密な関係を築こうとする、地道な努力が必要なのだと思います。何気ない日常のなかでは、他人と関わることを意識しているかどうかで変わってくると思います。そしてそれは、大人同士の関わりだけではなく、我が子以外の子どもたちとの関わりも同じです。子どもたちにも積極的に関わってあげてください。子どもは沢山の大人と関わることで、より人間らしく成長できるのです。

子どもが「ひと」として育つために、大人が「大人」として育つために、それぞれが一步を踏み出してほしいと願っています。

<最後に>

是非心に留めておいてほしい一説があるので引用しておきます。山本さんの書かれた新聞記事の一説です。地域について書かれていますが、これは人間関係を築く際の基本ルールのようなものだと思います。

「地域は本来、価値観の対立のるつぼのようなところだ。住民が自由に学習して自由に発言し、対立する他者に敬意を払って合意点を見つけることでしか、本当の絆は生まれまいだろう。」

これからも、子ども達をとりまく大人同士に絆が生まれる保育園であり続けてほしい。そう願いを込めて、自分にできる事を自分なりに地道に続けていきたいと思っています。

